

# 第 6 学 年 国 語 科 学 習 指 導 案

日 時 平成17年10月13日(木) 5校時  
児 童 6年生 男1名 女4名 計5名  
授業者 宇 部 輝 彦

1 単元名 ー 表現を味わい、豊かに想像しよう  
教材名 「やまなし」 (光村図書 六年下)

## 2 単元について

### (1) 児童について

子どもたちは、6年生でこれまでに二つの物語教材を学習してきた。「カレーライス」では、人物の気持ちや場面の情景を想像しながら読むことを、「海の命」では、人物の気持ちや場面の情景の叙述や描写の巧みなところに目を向け、推測し、共感し、感動しながら読み味わうことを主なねらいとして学習してきた。その結果、国語学習に意欲的に取り組み、登場人物の言動や心情を追いながら主題を読み取ったり、読み取った事柄を書き込みや文章に表現したりする力が少しずつ身につけてきている。

しかし、使われている言葉に着目して、読みを深めながら描かれている情景をイメージ豊かにふくらませたり、描写と心の動きを結びつけて読み味わったりといった力はまだ十分ではない。したがって、主題の読み取りも浅く、やや表面的・部分的な読みに傾く傾向がある。

### (2) 教材について

この物語は、宮沢賢治独特の言葉で描かれた、詩的・映像的世界の作品である。かのにの兄弟が恐怖や死の不安にさらされながらも、やがてその世界をくぐりぬけ、静かで平和な生の喜びに満ちた豊かな世界に浸る様子が、父親がにとの語らいや美しい情景描写の中で繊細に描かれている。

前半の「五月」は、明るい陽光の中で生命が躍動する昼の谷川が舞台になっている。その中で、弱肉強食の争いによって引き起こされる二つの冷酷な死が、いわば現実の世界として描かれている。後半の「十二月」は、月光が水中に透き通る静かな夜の谷川が舞台になっている。すべてのものが眠りにつく冷たい時期であるが、その中でかのにの親子の暖かい語らいや、突然落ちてきたやまなしがもたらす幸せが、平和で豊かな理想的世界として描かれている。どちらも川底のかのにの目を通して語られる世界である。

文章は、「五月」と「十二月」の場面を、「動と静」「冷と暖」「昼と夜」「かわせみとやまなし」など、徹底した対比で表現される「小さな谷川の底を写した二枚の青いげん灯」で構成されている。この対比は、「五月」の場面の中でも「明と暗」として描かれているが、このほかにも、比喩、擬声語、擬態語、色彩語、造語が文章の至るところで巧みに使用されており、これらによって、情景が鮮やかに描写され、かのにの親子を取り囲む世界が生き生きと詩情豊かに語り上げられている。

これら優れた表現を読み味わい、物語のイメージを豊かに広げながら読み深め、主題にせまることのできる作品である。

### (3) 指導にあたって

本教材では、描写から水の中に差し込む光、波のゆれ動くさま、かのにの会話、かわせみとやまなしの来訪が織りなす川底の情景をとらえ、児童それぞれが自分なりのイメージをより鮮明に豊かに描き上げていくことをねらいとしたい。

そのために一人学びでは、比喩、擬声語、擬態語、色彩語に気づかせ、言葉のひとつひとつの響きやイメージを大切にしながら朗読・視写・書き込みをさせていきたい。また学び合いでは、情景と「かわせみ」「やまなし」の描写を対比させたり、「五月」と「十二月」を対比して考えさせたり、情

景等にかにの親子の気持ちを密接に結びつけて考えさせ、書き込みを重ねるなどし、読み取りを深めさせていきたい。  
 繊細な描写表現を読み取ることから、児童一人ひとりに情景を豊かにふくらませて想像し、主題にせまる力をつけてやりたいと考える。

### 3 単元の目標について

#### (1) 目 標

関心・意欲・態度

- ・描かれた情景を手がかりに想像し、作品の世界を味わう。

書くこと

- ・文書の要旨をまとめて書いたり、感想を書いたりする。(イ・エ)

読むこと

- ・「やまなし」に描かれた情景を、叙述に即して想像しながら読む。(ウ)
- ・五月と十二月の川底の様子、それぞれの月に描かれている行動や情景を対比し、「やまなし」の世界を味わう。(ウ)
- ・賢治らしさを感じるところに気をつけながら賢治の様々な作品を読み、交流することを通して、賢治の思いや願いをより深くとらえる。(エ)

言語事項

- ・一つひとつの言葉、複数の言葉が醸し出す響きを味わい、言葉に対する感覚を豊かにすることができる。(ウ・エ)

#### (2) 研究仮説にかかわって

人物の気持ちや場面の情景の叙述や描写の巧みに気づく。

### 4 学習計画(10時間扱い)

時数	到達目標(学習活動)	評価規準
1 持 つ	「五月」と「十二月」の二つの場面の様子を話し合い、学習課題を持つ。	A:二つの場面の違いを文中から比較し、学習課題を持つことができる。 B:二つの場面の違いを説明し、学習課題を持つことができる。
4 見 通 す ・ 学 び 合 う	色彩表現や比喩表現に着目して、明るくなったり、暗くなったりする「五月」の世界を読み取る。	A:「五月」前半の世界を、谷川の描写や、魚の描写を関連づけながら、明るい感じと暗い感じの交錯する世界に気づき、まとめることができる。 B:「五月」前半の世界を、明るい感じと暗い感じの交錯する世界に気づき、まとめることができる。
	「五月」の川の様子・かにの行動・侵入してくるものの描写を関連づけて読み、「五月」の世界を読み取る。	A:「五月」後半の世界を、五月の出来事と情景描写の対比により、怖さが際立つことに気づき、まとめることができる。 B:「五月」後半の世界を、五月の出来事と情景描写の対比によりまとめることができる。
	「十二月」の川の様子・かにの行動・登場するものに着目して、「十二月」前半の世界を読み取る。	A:「十二月」前半の世界を、色彩表現・比喩表現・会話表現から、「五月」との違いに目を向けまとめることができる。 B:「十二月」前半の世界を、「五月」との違いに目を向けまとめることができる。

	川の様子・かへの行動・侵入してくるものの描写を関連づけて、「十二月」の世界を読み取る。 <b>本時</b>	A:「十二月」の世界を、やまなしの描写と情景描写、五月の「かわせみ」と「やまなし」などの対比により違いに気づき、まとめることができる。 B:「十二月」の世界を、やまなしの描写や、五月の「かわせみ」と「やまなし」などの対比によりまとめることができる。
5 広 め る	資料「イーハトーヴの夢」を読み、宮沢賢治の理想や生き方について、感想をもつ。	A:賢治の生き方に触れるとともに、賢治の理想について読み取り、まとめることができる。 B:賢治の生き方に触れるとともに、賢治の理想について読み取り、説明することができる。
	「やまなし」に込められた賢治の思いや願いをつかむ。	A:「やまなし」に込められた賢治の思いを、賢治の理想と現実とで対比させ、まとめることができる。 B:「やまなし」に込められた賢治の思いをまとめることができる。
	賢治の夢や理想を求めて、賢治のほかの作品を読む。(2)	A:賢治の夢や理想と、現実とが表れていると感じられるところに付箋をはり、その理由を書くことができる。 B:賢治の理想の世界が描かれているかを見つけながら多読し、夢や理想が表れていると感じられるところに付箋をはる。
	賢治の作品に描かれている賢治の夢や理想と現実とを話し合い、賢治の作品に込められた思いをより深く考える。	A:作品に込められた賢治の夢や理想について付箋をもとに話し合い、感じたことをまとめる。 B:付箋をもとに賢治の夢や理想を紹介し、感じたことをまとめる。

## 5 本時の指導

### (1) 到達目標と具体的評価規準

#### 到達目標

「十二月」の川の様子・かへの行動・侵入してくるものの描写を関連づけて読み、「十二月」の世界を読み取る。

#### 具体的評価規準

##### A (十分満足)

「十二月」後半の世界を、やまなしの描写(トブン・きらきらっ・ぼかぼか・いいにおい・おいしそう)と情景描写(かわせみだ・首をすくめて・二日ばかり待つとね・もう帰ってねよう:かへの親子,サラサラ鳴り、青いほのお、青白いほのお、金剛石の粉:川底の様子)を対比させることによりやまなしの描写が際立つことに気づき、まとめることができる。

##### B (おおむね満足)

「十二月」後半の世界を、やまなしの描写からつかみまとめることができる。

##### C (努力を要する児童への手立て)

やまなしを描写している語句を複数個抜き出し、自分の考えを書き込むことにより、「十二月」の後半のイメージをつかませる。

### (2) 研究主題との関連

「人物の気持ちや場面の情景の叙述や描写の巧みに気づく」に迫るために、やまなしの描写、かへの親子の会話や様子、谷川の様子を表す語句を抜き出し書き込みをさせたり、「五月」のかわせみと対比させたりすることにより、「十二月」後半の世界を話し合わせる。

## (3) 展開

段階 時間	学習活動 教師の働きかけ（発問・指示）	児童の反応 評価 留意点	一人ひとりの読みの見取りと教師の手だて
漢字 5分	1 漢字スキル	筆順をみながら，正確に書いているか確かめる。	A男，B女：雑になりがちなので，丁寧を書くよう指導する。
持つ・見通す 15分	<p>2 学習課題の確認</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>やまなしが落ちてきた「十二月」は、どんな世界になっていったのだろう。</p> </div> <p>3 学習場面の把握 やまなしの描写の読み取り 指示1 「十二月」の後半はどんな世界が感じられるか読んでみよう。</p> <p>4 一人学び 発問1 「十二月」後半の主な出来事は何だろう。</p> <p>指示2 やまなしが落ちてきて川の中はどんな世界になったか，分かるところにサイドラインを引き，書き込みをしなさい。</p>	<p>課題を視写し，斉読する。</p> <p>微音読 指名読み</p> <p>やまなしが落ちてきて流れていった。</p> <p>幸せな感じや平和な感じ，楽しそうな感じのする言葉，同じ感じのする言葉をつないだり線を引いたりし，書き込みをする。 前時までの学習内容を掲示。</p>	<p>A女：読み間違わないよう、教科書をしっかり見て音読させる。 B女：指名音読：</p> <p>A男：思考が途切れがちになることがあるので，前時までの学習内容の掲示で確認させる。 A女：書き込みの箇所がずれがちなので，気をつけさせる。</p>
学び合う	5 学び合い 発問2 やまなしはどんな様子で落ちてきただろう。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>「トブン」 やさしく軽い感じで。 「きらきらっ」 輝く感じで。</p> </div>	C，D女：結論を出しがちなので，順序立てて説明するようにさせる。

<p>15分</p>	<p><b>かへの親子と川底の情景の読み取り</b></p> <p>発問3 「やまなしだ」とお父さんがにに教えられたとき、かへの兄弟はどんな気持ちになっただろう。</p> <p>発問4 かへの親子はなぜやまなしを追って行ったのだろう。</p> <p>発問5 やまなしが止まった辺りはどんな情景だろう。</p> <p>発問6 やまなしが止まった様子を見て、かへの親子は、どんなことを想い帰っていったのだろう。</p> <p><b>十二月後半のやまなしの世界のまとめ</b></p> <p>発問7 やまなしがもたらしたものは何だろう。</p>	<p style="text-align: center;">⇕</p> <p>「かわせみだ。」「首をすくめて」 殺されると思ったのでホッとした。 怖かったけど安心した。</p> <p style="text-align: center;">⇕</p> <p>「ぼかぼか」 流れるのが面白くて。 「きらきらっ」 きれいだから。 「いいにおい」 においに誘われて。</p> <hr/> <p>「もかもか集まり」 スポットライトを浴びたよう。 ⇕ 「サラサラ鳴り」「青いほのお」「青白いほのお」「金剛石の粉」 美しいけど冷たい。</p> <p>「おいしそう」 楽しみだな。 「二日ばかり待つとね」 待ち遠しいな。 「もう帰ってねよう。」 安心して帰った。</p> <p>幸せ。安心。期待感。</p>	<p>B女：友達の考えに左右されがちなので、自分の考えをしっかりと持たせる</p> <p>C女，D女：意欲的に話し合いに参加することにより、よりよい考えを引き出させる。</p>
<p>広める 10分</p>	<p><b>6 広める</b></p> <p>指示3 話し合いから、「十二月」後半の世界をまとめよう。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・やまなしが落ちてきて、十二月の谷川は<u>幸せ</u>と<u>安心感</u>のある世界になっていった。</li> <li>・やまなしが落ちてきて、<u>冷たい</u>十二月の谷川は<u>期待感</u>のある世界になっていった。</li> </ul> </div>	<p>ノートに自分の考えをまとめる。 まとめを板書する。</p> <p>やまなしと周りの情景を想像豊かに読み取りまとめることができたか。</p>	<p>A男：短い文章でまとめさせる。</p>

<p>7 まとめ 指示4 まとめを発表しなさい。</p> <p>指示5 「十二月」の後半を読んでみよう。</p> <p>8 感想発表</p> <p>9 次時の学習を知る</p>	<p>自分のまとめを発表する。 友だちのまとめからよりよい考えを導き出す。 まとめの視点を板書する。</p> <p>P 8 L 2 ~ P 1 0 L 6 指名読み。 指名読み ( 2 名 )</p>	<p>A男, B女: 指名音読により, 学習の定着を図る。</p>
--	--	-----------------------------------

(3) 板書計画

